



REFLECTION TELESCOPE

島津反射望遠鏡

52,500.-

SHIMADZU SEISAKUSHO LTD.
KYOTO, JAPAN.

REFLECTION TELESCOPE

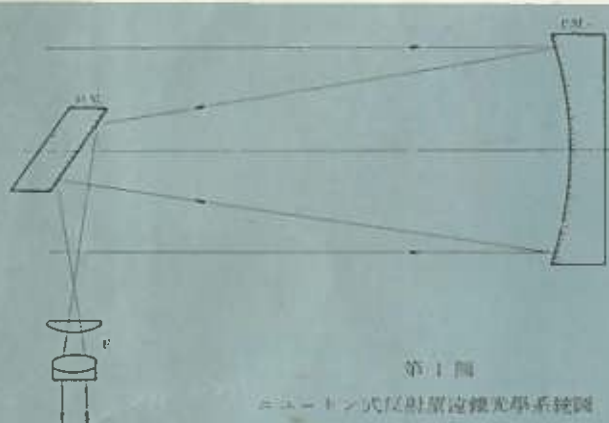
島津反射望遠鏡

用途

本反射望遠鏡は當社多年の経験と特に優秀な光學器械技術によつて製作したニュートン式反射望遠鏡でありまして、種々の天文現象を観測するのに極めて便利に設計せられております。特に赤道儀型式を採用してありますので、學校等における集團觀測あるいは天文愛好家等にとり下記の觀測を容易なようにしてあります。

觀測範圍

太陽の黑點直斑、月の火口、山脈、木星の縞および衛星、土星の環、金星の半月狀、その他星雲、二重星等



原理

本器は精度の極めて良好な拋物面鏡が色收差を全くともなわない原理により、ニュートンが考案したもので第1圖において P、M は拋物面鏡で、D、M は45°に傾いて取付けられている斜鏡、E は接眼鏡であります。

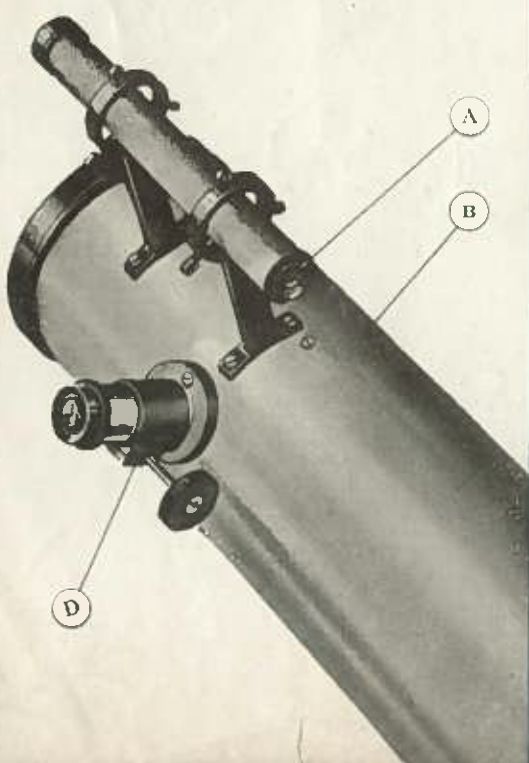
構造

第2.3圖寫眞は本器の外観主要部を示します。案内望遠鏡(A)は3本のねちの附いた支持具に取付けられておりまして、その光軸は主望遠鏡の光軸と一致してあります。

視野は第4圖のように十字線が張られて目的物が井桁の中心に入れます。

鏡筒(B)の中には拋物面鏡が後方に取付けられており、前方には斜鏡が3本の張板で吊られておりまして、その光軸は第5圖の主鏡の光軸調整機構と同様な方法で正しく合わされます。

鏡筒(B)はねち(F)をゆるめ把手(C)により支持部(E)の中で回轉し、接眼部(D)を任意のところまで固定することができます。

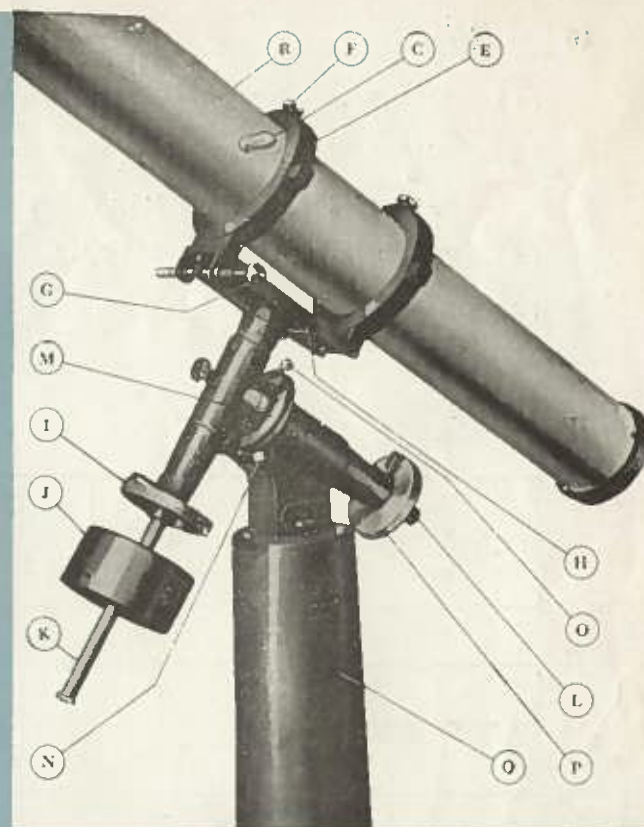


SHIMADZU

SEISAKUSHO

★ ★ ★

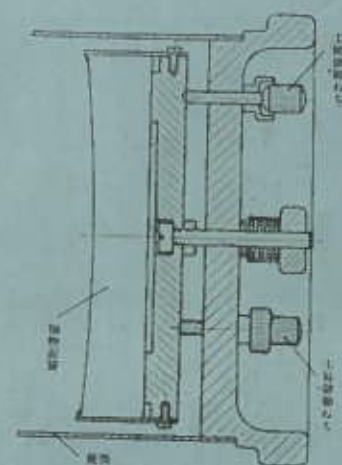
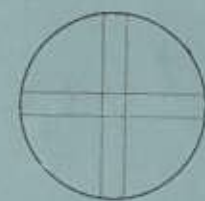
- (A) 案内望遠鏡
- (B) 筒
- (C) 鏡筒回轉把手
- (D) 接眼鏡挿入口
- (E) 鏡筒支持部
- (F) 回轉固定ねち
- (G) 赤緯微動ねち
- (H) 赤緯軸固定ねち
- (I) 赤緯目盛回環
- (J) 平衡重錘
- (K) 赤緯軸
- (L) 極軸
- (M) 極軸回轉齒車
- (N) 回轉把手
- (O) 極軸微動固定ねち
- (P) 赤經目盛
- (Q) 脚



★ ★ ★

赤緯軸(K)は微動ねち(H)をしめて、把手(G)によつて微動され、またねち(H)をゆるめることにより鏡筒(B)と共に大きく回轉します。しかし赤緯は目盛回環(I)により1°まで讀まれます。

極軸(L)は、水平面に對して35°傾いており、脚(Q)の下方にあります3本のねちにより正確にその地の緯度に合はすことができます。また極軸(L)は把手(N)を回轉シウォーム齒車(M)により天體の日周運動を追うことができます。赤經目盛環(P)は時間目盛でありまして、5分まで讀取ることができます。



第5圖 主鏡光軸調整機構

特 長

- (1) 赤道儀型式でありますから簡単に天體の日周運動を追うことができます。
- (2) 主鏡および斜鏡とともに優秀な光學ガラスを用いてあり完全に研磨されておりますから、その映像の鮮鋭さは他に類を見ないものであります。
- (3) 脚が極めて堅固にできておりますから、観測中に振動による像の亂れなどは全くありません。
- (4) 目盛円環がありますから、星圖などにより目的の星を探すのに非常に便利であります。

要 項

主 望 遠 鏡	口 徑	焦 點 距 離	接 眼 レ ン ズ (ケルナー型)	倍 率
	110mm	1000mm	9mm 20mm	110× 50×

案 内 望 遠 鏡	口 徑	視 界	倍 率
	20mm	4°	6×

備 考

標 準 附 屬 品	9mmケルナー接眼レンズ	1 個
	20mm "	1 個
	サ ン グ ラ ス 枠	1 個
	サ ン グ ラ ス	1 枚
	格 納 箱	1 個

株 式 會 社 島 津 製 作 所

本 社	京 都 市 中 京 区 西 ノ 京 桑 原 町 18	電 生	4351
東 京 支 店	京 都 市 神 田 区 錦 町 1ノ3	電 神	752
福 岡 支 店	福 岡 市 博 多 区 上 小 山 町 47ノ1	電 東	331
大 阪 支 店	大 阪 市 西 区 阿 波 堀 通 1ノ53	電 新	790
名 古 屋 營 業 所	名 古 屋 市 中 村 区 堀 内 町 2ノ33	電 西	749
札 幌 營 業 所	札 幌 市 札 幌 区 南 一 條 西 5ノ3	電	4620